

26年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
入荷動向	国産材	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	外材	△ 12.5	△ 50.0	△ 25.0
在庫動向	国産材	0.0	△ 8.3	0.0
	外材	25.0	△ 12.5	△ 25.0

・国産材ラミナの入荷は11月の横ばいから12月、27年1月は減少へ、外材は3ヵ月連続して減少。

・国産材ラミナの在庫は11月の横ばいが12月は減少し、27年1月は横ばいに、外材は11月

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
国産材	△ 8.3	△ 8.3	0.0
欧州材	10.0	10.0	30.0
その他	75.0	75.0	75.0

・国産材ラミナ購入価格は11月、12月のやや弱保合から27年1月は横ばいに、欧州材及びその他材は3ヵ月連続して強保合ないし強含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは、合板向け丸太の荷動きがあまり良くないことと原木価格も弱含みで入荷量は潤沢。カラマツは前月よりは入荷状況良くなると思う。スギ製品の荷動き悪く在庫量は調整している。カラマツの11月在庫は若干増。
・契約分は順調な入荷、生産調整中で在庫は増加。
・国産材の入荷は依然増える予定なし。外材は在庫調整にかけている。国産材の使用が先月よりも増える予定。
・国産材の山からの出材は増加するが、大きく需要は伸びず、やや横ばい傾向。外材は円安で徐々にコストアップになるため入荷は少し減りそう。ただし外材→国産材へのシフトも予想される。全般的に秋を越えると市況の活性化は考えにくく生産、在庫も横ばいと予想。

(ラミナ価格動向)

・スギは前月同価格で落ち着いている、カラマツは11月から5%の値下げをしたが、未だ原木価格は下がっておらず12月以降は横ばいと見込む。
・為替の影響で1Qは単価が上がるだろう。
・円で決めている物は下がるが、ユーロ決めは為替に影響される。
・外材は円安の影響を受け始めるだろう。故に必ず上昇すると予想。

26年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
生産動向	国産材	0.0	△ 7.1	7.1
	WW集成管柱	△ 37.5	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 25.0	12.5	△ 12.5
	米マツ集成平角	△ 100.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	WW集成管柱	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	RW集成平角	△ 12.5	0.0	△ 12.5
	米マツ集成平角	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は11月の横ばいから12月は減少、27年1月は増加に、WW集成管柱及び米マツ集成平角は11月の大きな減少から12月、27年1月は横ばいに、RW集成平角は11月の減少が12月には増加し、27年1月は再び減少へ。

・国産材集成材の出荷は11月の横ばいから12月、27年1月は減少に、WW集成管柱及び米マツ集成平角は3ヵ月連続して減少、特に米マツの減少が大きい、RW集成平角は11月の減少が12月の横ばいを経て、27年1月は再び減少へ。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
スギ集成管柱	0.0	10.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 10.0	10.0	0.0
RW集成平角	△ 12.5	25.0	12.5
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	25.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成材の出荷価格は11月の横ばいが12月のやや強保合を経て27年1月は保合に、ヒノキ、カラマツ及び米マツの集成材の出荷価格は3ヵ月連続して横ばいに。

・WW及びRW集成材は11月のやや弱保合が12月、27年1月は保合ないしやや強保合に。

・米ヒバは11月、12月の横ばいから27年1月は強保合に。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・製品需要は依然として低調、受注量に応じ生産調整。遅れていた災害公営住宅の一部着工や非住宅物件、その他一般物件の秋需など、一時的な引き合いは増加、但し12月以降は季節的要因も重なり出荷は減少、依然として需要の不透明感は強い。

・生産調整中、今月は荷動きが良くなった（為替の影響）。

・生産は大きく変わらない、例年年末に出荷が増えるが、今年はそこまで動かない。為替の影響もありどの会社もタイミングを見て購入する。

・生産数量は変わらない。これからの需要は読みにくい、引き合いが減るとの見方は持っておらず、今の生産を続ける。12月までは、少し多めの生産を続け、ヒノキよりもヒバが引き合い強く、少し多めの生産。大手ビルダー向けも比較的安定しており、当面は同じくらいの出荷数量を予定、北海道、東北が昨冬のように冬場の落ち込みがなければ減産しなくてもすむのだが、今現在の需要はまだ伸びている。在庫も適正かそれ以下になって作れるだけどんどん作るようにしている。ベイヒバは特に北海道の動向に大きく左右される。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、10月の価格調整において一部逆ザヤの価格帯が発生。需給バランスは崩れており市況は更に下がる可能性があるが、追従は難しいため横ばいと見込む。カラマツは競合樹種との価格差は大幅で売りにくい環境。原料背景から値下げ要素はなく現状維持は必須。

・年内横ばい、来年は下がる。

・ヒノキ集成柱は、一部安く売っているメーカーもあるが、採算を考えるとそれには対抗出来ない。現状を下がらないよう踏ん張る。米ヒバ土台角は、円安による先の値上げ、これは今からでも少しずつ匂わせて行くようにし、お客様に理解してもらう。